

第1章 昭和62年度山口大学構内遺跡調査の概要

山口大学の関連諸施設は山口・宇部・光の県内各市内に分散している。各構内には、縄文時代後・晩期から江戸時代にかけての複合集落遺跡として著名な吉田構内をはじめとして、周知の遺跡が埋存している。山口大学埋蔵文化財資料館は学内共同利用施設として、これら各構内において現状変更を伴う諸工事に対し、埋蔵文化財保護の観点から調査・研究を行っている。すなわち、埋蔵文化財の調査を必要とする場合は、工事地域周辺における既往の調査結果や工事の内容、埋蔵文化財に対する影響の度合等を勘案し、埋蔵文化財資料館運営委員会の議を経て、立会、試掘、事前の三種の調査方法によって調査を実施している。

昭和62年度は事前調査2件、試掘調査2件、立会調査10件の計14件の調査を実施した。

Tab. 1 昭和62年度山口大学構内遺跡調査一覧表

調査区分	調査名	構内地区	構内地区割	調査面積 (m ²)	調査期間	挿図番号
事前	教育学部附属教育実践 研究指導センター新営	吉田構内	K-18	240	6月22日～ 8月11日	Fig. 77-91
	教養部複合棟新営	吉田構内	J・K-17・18	900	9月14日～ 12月12日	Fig. 77-94
試掘	教養部複合棟新営	吉田構内	J・K-17・18	35	7月21日～ 7月27日	Fig. 77-92
	医学部附属病院病棟新営	小串構内		104	1月19日 2月15日～ 3月4日	Fig. 78-16
立会	教養部複合棟新営	吉田構内	I・J-16	30	9月8日 2月24日 3月12・17日	Fig. 77-93
	国際交流会館新営	吉田構内	M-23 N-22・23	195	11月9日～11日 3月28日	Fig. 77-96
	教育学部附属養護学校 自転車置場移設	吉田構内	B-21	1	11月20日	Fig. 77-97
	農学部附属農場E7圃場排水管理 設及びE6圃場進入路拡幅	吉田構内	L・N-12	45	12月14日 3月7日～9日	Fig. 77-98
	農学部植栽	吉田構内	N-17	3	3月17日	Fig. 77-99
	経済学部集水桝取設	吉田構内	K-20	0.5	3月20日	Fig. 77-100
	九田川改修	吉田構内	B・C-17	20	10月20日	Fig. 77-95
	医学部附属病院東駐車場改修	小串構内		6	9月7日	Fig. 78-15
	教育学部附属幼稚園 遊戯室拡張	亀山構内		40	11月26日	Fig. 80-6
	教育学部附属光中学校 グラウンド防球ネット設置	光構内	V-15・16	2	3月28日	Fig. 82-5

吉田構内の調査

事前調査2件、試掘調査1件、立会調査7件の計10件の調査を実施した。

教育学部附属教育実践研究指導センター新営予定地では、弥生時代から古墳時代にかけての土壌1基、柱穴、江戸時代の土壌2基、および近・現代の溝5条を検出した。これらは上部の削平も著しく、良好な残り方はしていない。調査区は遺跡保存地区に近接するが、



Fig. 1 山口大学吉田・亀山キャンパス位置図

検出した遺構は少なく、後世の攪乱よりは、本来の地形そのものに影響されていると考えられる。当調査では、縄文時代晩期の石器類の抽出に成功し、吉田構内において、また山口盆地内で初めて当期の包含層を確認した。これに伴って、水洗選別による微細遺物の有無を確認した結果、若干の碎片類が検出された。周辺地域での今後の調査に期待される。出土石器には姫島産黒曜石製のブランクなどがあり、現在、県内での報告例はなく、石器製作法を究明する手がかりとして、重要な資料となった。また、この包含層下位で検出された河川跡からは自然木・種子等の植物遺体が発見された。分析の結果、当期の植生が明らかとなり、環境復元の上で貴重な資料を提示することとなった。なお、攪乱層から黒曜石製の細石刃？が出土したが、これまで細石器文化期遺物の発見はなく、形状からは積極的に肯定できるものではない。

教養部複合棟新営予定地では、縄文時代、弥生時代から古墳時代、江戸時代の遺構を検出した。縄文時代のものには晩期の河川跡、落とし穴、溝、谷状遺構のほ

か遺物包含層がある。県内では縄文時代の遺跡の調査例が乏しく、しかも、沿岸部に集中しており、貴重な調査例となった。落とし穴と思われる遺構は、幅29m以上の規模をもつ河川跡と同一面で検出された。県内では極めて類例が少なく、古環境、生業形態を解明する資料として注目される。遺物包含層は晚期中頃のもので、本構内では初例である。後述する弥生時代以降の遺跡は、遺物包含層を掘り込んでいることが明らかになり、火山灰の分析結果などから今後、同時期さらにはそれを遡る時期の遺構、遺物包含層が検出される可能性がある。弥生時代から古墳時代のものには竪穴住居跡4基、河川跡2条等がある。竪穴住居跡は遺跡保存地区と同時期のもので、吉田構内南西部から中央部付近にかけて大規模な集落が存在していたことを窺わせ、本構内における集落の時的的な立地、規模、展開過程を解明する好資料となった。江戸時代は掘立柱建物跡2棟、井戸2基、埋甕土壇3基等の集落関連遺構がある。両建物は棟方向がほぼ直交し、井戸、埋甕土壇を付設する屋敷内の一連の建物と考えられ、屋敷構造、集落および構成員の性格を知る良好な遺構である。

出土遺物には縄文時代から平安時代および江戸時代の土器、縄文時代の石器などがあり、須恵器模倣土師器、墨書のある須恵質土器は注目に値する。

立会調査では7件のうち3件の調査で、遺物包含層あるいは遺構が認められた。

教養部複合棟新営に伴う調査では、時期は明かでないが溝状遺構を、国際交流会館新営に伴う調査では、弥生時代から古墳時代およびそれより時的的に遡る可能性のある2条の



Fig. 2 山口大学小串・常盤両キャンパス位置図

河川跡を検出した。また、農学部附属農場E6圃場進入路拡幅に伴う調査では、全リン酸・全カルシウム量の定量分析結果から、土壌墓と考えられる土壌が検出された。遺物包含層は同E7圃場での排水管理設工事で認められ、古代から近世の各時期の遺物が混在する。

小串構内の調査

試掘調査1件、立会調査1件の計2件の調査を実施した。

医学部附属病院棟新営に伴う試掘調査では、北側と南側にトレンチを設定したが、両者の土層は著しく異なっていた。北側では初めて山土を検出し、旧地形の北東方向への傾斜を確認した。また遺構では、近・現代の所産と考えられる溝2条が発見された。削平が著しく、これまで検出されている遺構に新たな知見を加えるものではないが、このように遺構自体は確実に残存しており、今後の調査によっては古い時期の遺構の見つかる可能性はある。こうした中で、南側トレンチ内での数枚の遺物包含層の発見は大きな成果であった。特に、旧石器時代遺物のみを含むと考えられる層からは、姫島産玻璃質安産岩製のナイフ形石器など多量の石器類が出土し、剥片剥離法などの石器製作に係わる貴重な資料を提示した。また、黒曜石・チャート・凝灰岩など使用石材の多様性から、当期の交易・行動範囲の類推に際して極めて重要な資料であると言える。石材に関しては、蛇紋岩?が多く見られた。当期に石器石材として使用にたえ得るものかどうかの判別はし難いが、二次的な加工と思われる痕跡を持つものもあり、蛇紋岩系の石材がこのように多量に見られること自体、はなはだ珍しいと言える。

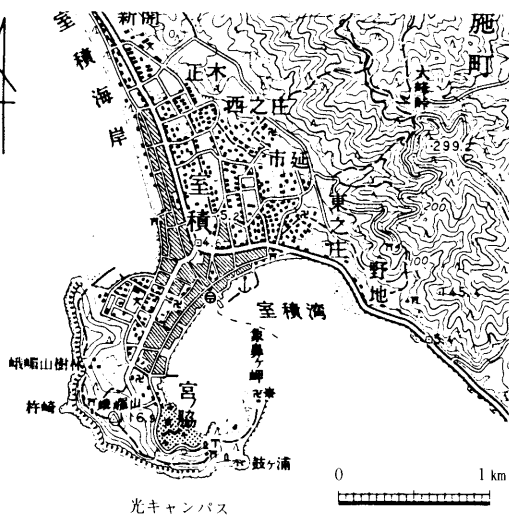


Fig. 3 山口大学光キャンパス位置図

同病院東駐車場整備に伴う立会調査では、過去の調査で認められた遺物包含層を検出したが、遺物は出土しなかった。

亀山構内の調査

教育学部附属幼稚園遊戯室拡張に伴い立会調査を行ったが、顕著な遺構、遺物包含層は認められなかった。

光構内の調査

教育学部附属光中学校グラウンドでの防球ネット取設に伴い立会調査を行った。明確な遺物包含層は確認していないが、土師器、瓦質土器、陶器、瓦が出土した。



Fig. 77 山口大学吉田構内地区割および調査区位置図

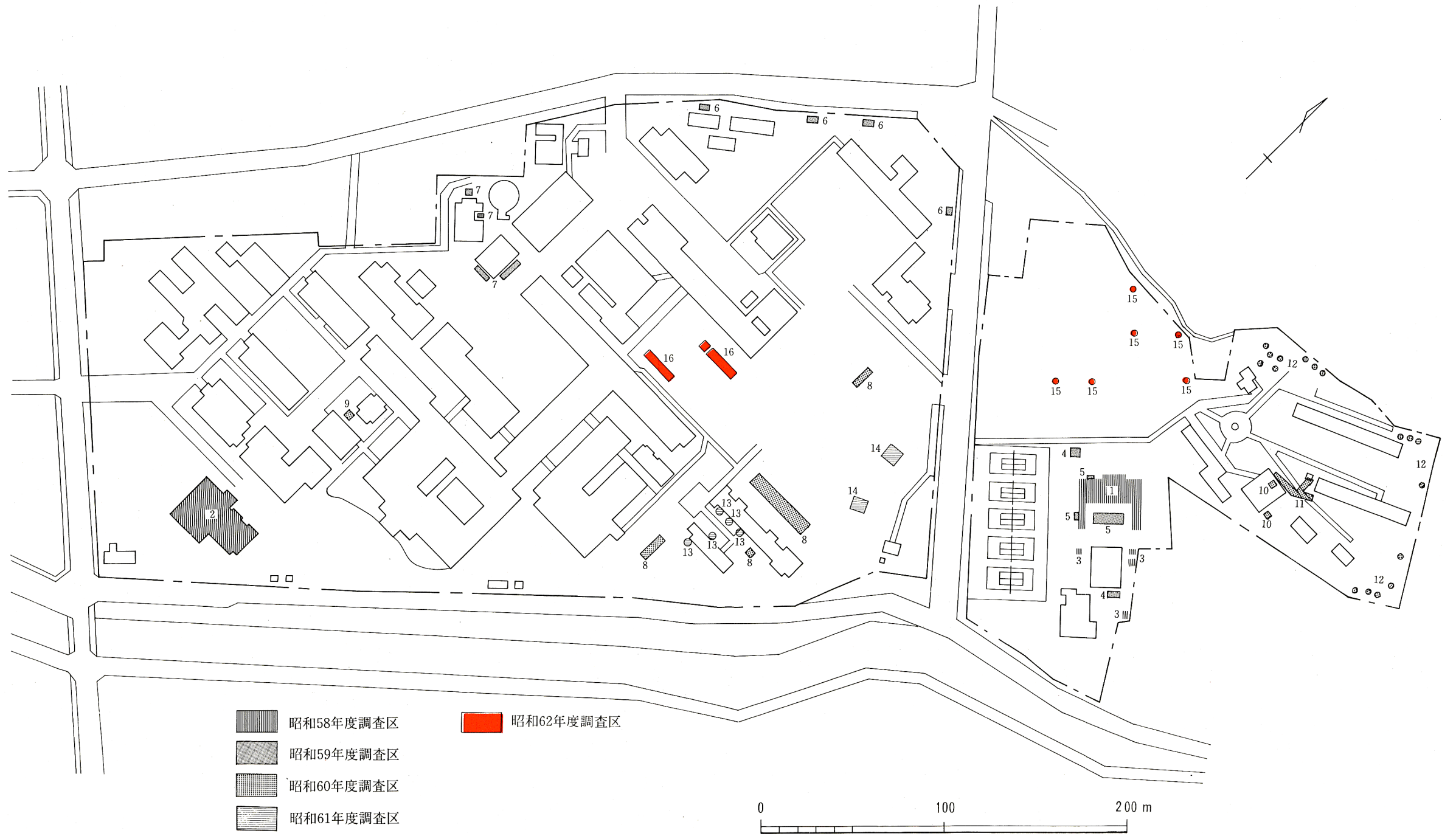


Fig. 78 山口大学小串構内調査区位置図

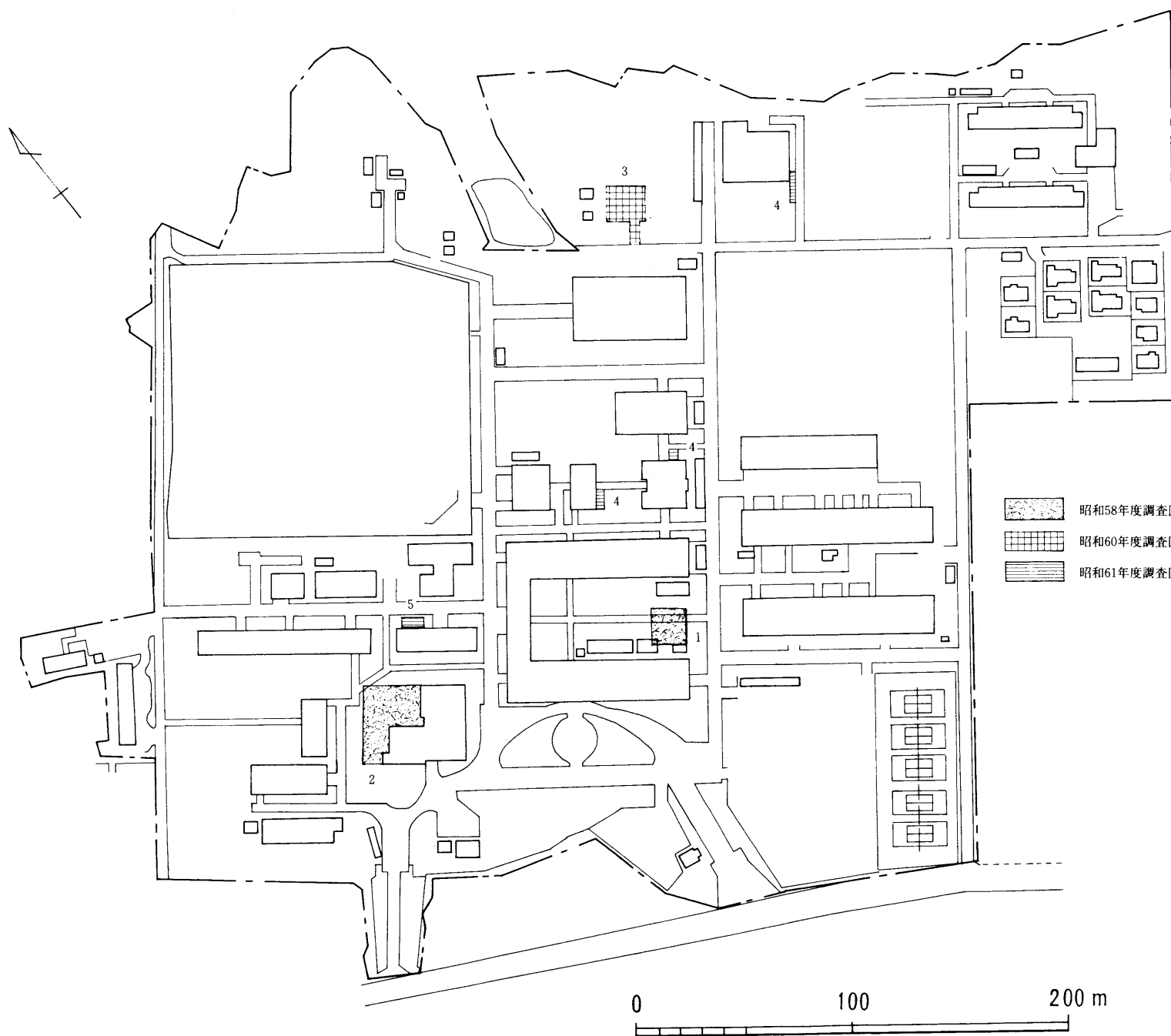


Fig. 79 山口大学常盤構内調査区位置図

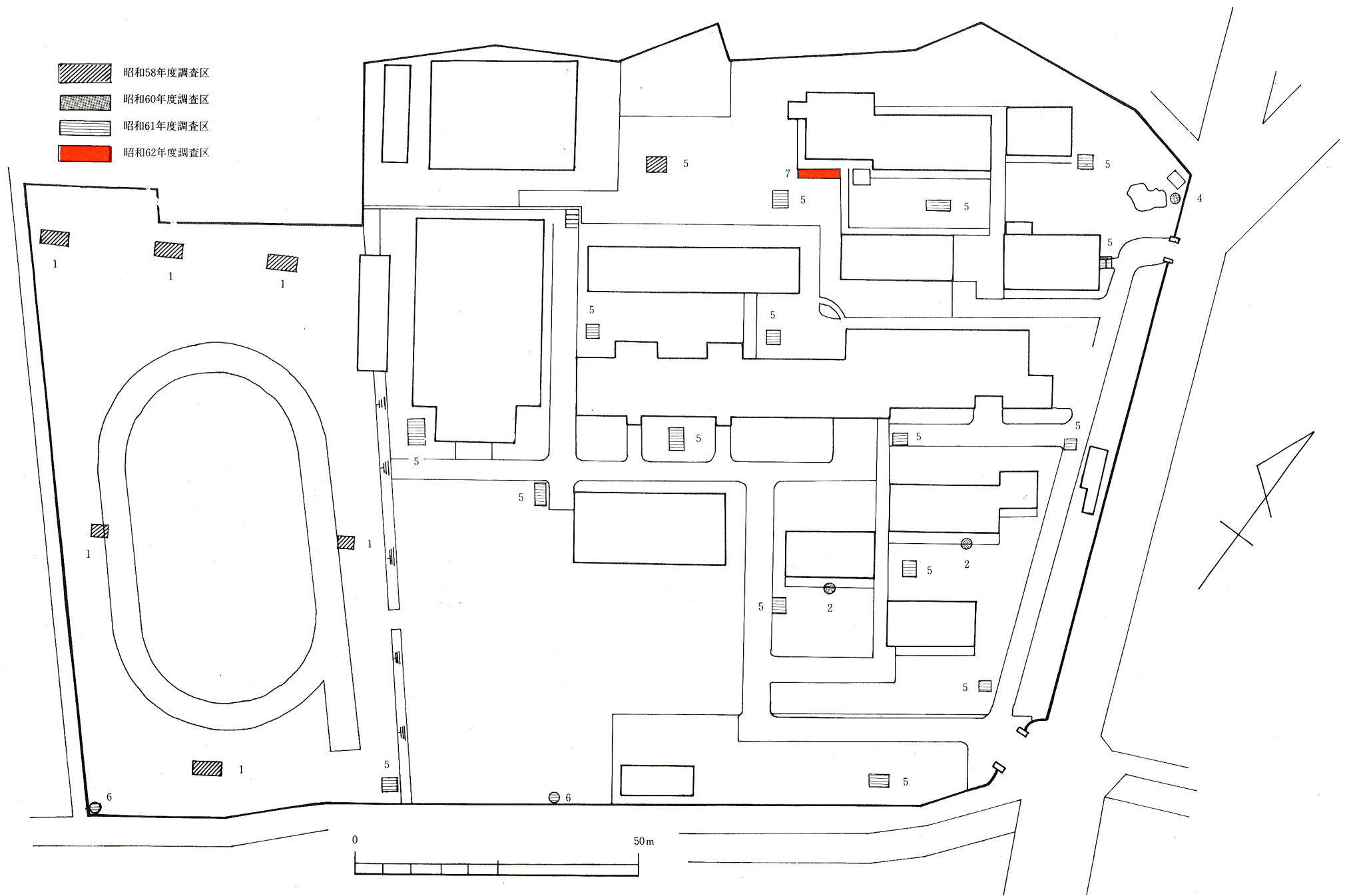


Fig. 80 山口大学亀山構内（幼稚園・小学校部分）調査区位置図

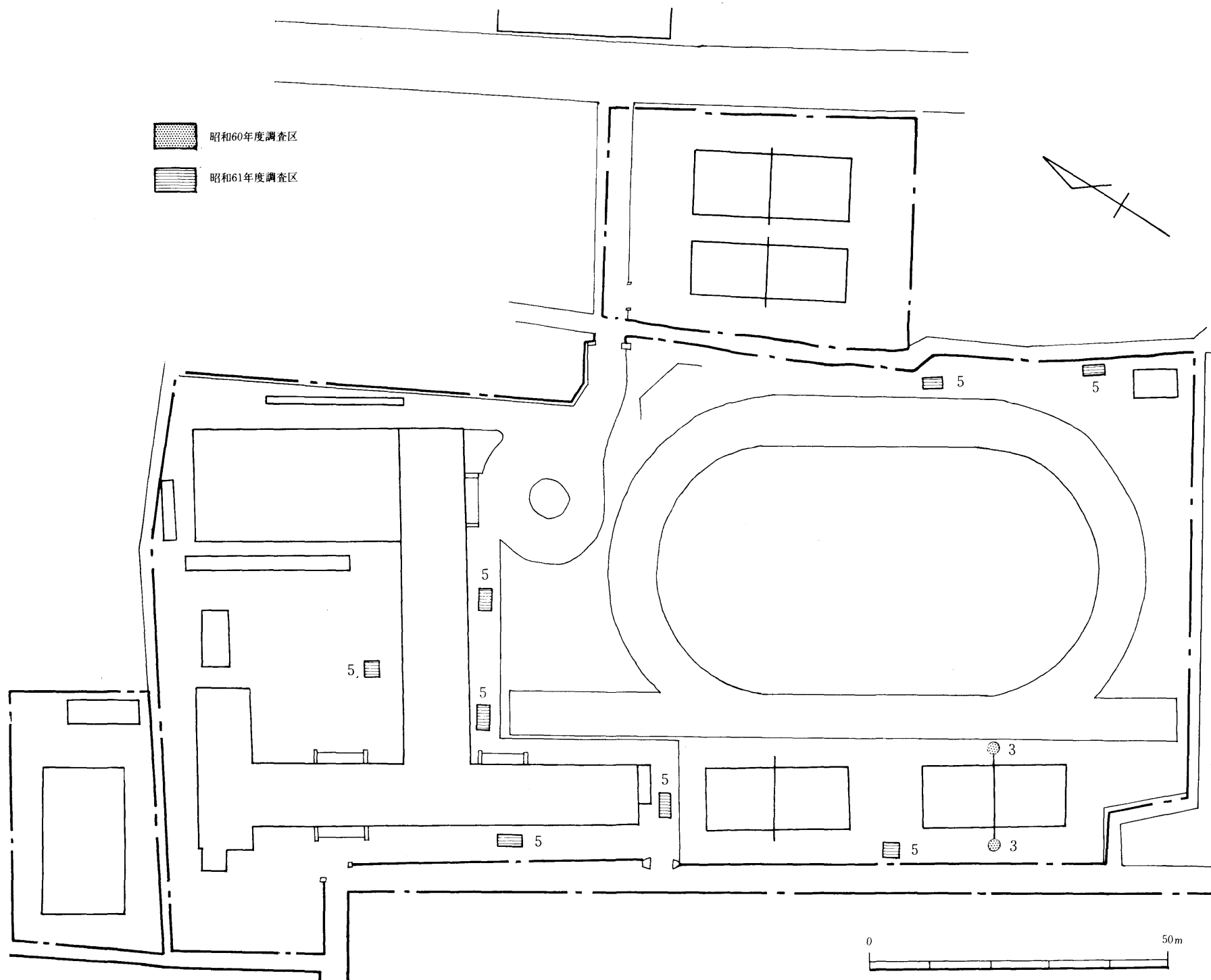


Fig. 81 山口大学亀山構内（中学校部分）調査区位置図

